

第1章

高エネ研(KEK)史料室のこの1年の活動

関本 美知子

高エネルギー加速器研究機構 助手

1. KEKの活動概況

高エネ研(KEK)に作業部会ができたのは2002年4月ですが、その後、いろいろな準備を進め、アーカイブズ室が立ち上がったのが、2004年4月です。

活動の概要は次のようにまとめられます。

1. 資料の収集、整理、分類、ファイル化
2. デジタル化
3. オーラルヒストリー、インタビュー
4. EAD化
5. ホームページ、検索など史料公開のための準備
6. KEKの一般公開、市民講座などへの資料提供
7. JSPS(NSF)プロジェクト

それぞれについて簡単に説明しておきたいと思います。

1. 資料の収集

現在集まっている資料は下記のとおりです。

- ・ 元所長、前機構長の西川先生、菅原先生からの資料
- ・ 2003年にシャットダウンされた12 GeV PSの35年にわたる総括に

についてのシンポジウム関係の資料、1996 年終了した TRISTAN 関係の資料

- KEK-PDG 資料（小柳嘉夫氏から資料一式を寄贈される）
- 1997 年東大の原子核研究所が KEK と連合したときの INS 関係の資料、東京大学ブースター中間子実験施設関連の資料
- KEK 退職者、その他からの寄贈

2. デジタル化

- KEK 建設当時の記録写真
- Photon Factory (PF) や Booster Synchrotron の管理関係の資料
これらについては、高橋先生が大変精力的にデジタル化を進めていらっしやるので、史料公開はたぶん最初にできると思います。

3. オーラルヒストリー、インタビュー

これまで以下の方にインタビューをお願いしています。

- JSPS Core to Core Program
 - 2004 年 12 月～2005 年 4 月 山口嘉夫
 - 2005 年 3 月 南部陽一郎（シカゴ大学）
 - 2006 年 3 月 尾崎敏（BNL）
 - 2007～ 2008 年 山内泰二（シカゴ大学）他が予定
- 総研大との共同プロジェクト
 - 2006 年 3 月 小林澈郎
 - 2006 年 3 月～7 月 戸塚洋二、他

4. 史料公開の準備

利用者のためのルール化や複製の仕方などについて、京都大学文書館に資料をいただき、参考にしながら準備を進めているところです。また利用者のためのコンピュータ・スペースや検索システムなどについても準備を進めています。

データベースのアーカイブズ化については、EAD 化を前提に、2006 年 4

月以降は、FileMakerPro を使って作業をしています。それ以前のものについては、高岩さんが作業をしていましたが、それを EAD に移管する方法についても検討しています。

5. KEK 史料の展示

KEK 史料を外部に公開した事例としては、以下のケースがあります。

- ・ 「日本の科学者展」(国立科学博物館、2005 年 12 月)
仁科芳雄をはじめ、初期の日本の原子力科学者 6 人の展示
- ・ 「湯川・朝永生誕百年展」(筑波大学、2006 年 7 月)
- ・ 「朝永振一郎博士と共同利用研究所」(KEK 一般公開、2006 年)
- ・ 「日本における加速器の歴史」(KEK 一般公開、2007 年) 検討中

6. 共同プロジェクト

- ・ JSPS-NSF の二国間共同研究
アメリカ側は S. Traweek さん(UCLA)、日本側は KEK 大強度陽子加速器計画推進部の吉岡さんが中心となり、2004~2005 年度、2007 年~2008 年度にかけて実施します。
- ・ 総研大葉山高等研究センターとの共同プロジェクト
平田先生が代表の「科学と社会」プロジェクトで、次のような共同研究を行っています。
 - ・ 大学共同利用研の歴史(核融合研、etc.)
 - ・ 資料情報の共有化(アーカイブズ、国文研、核融合研との協力による EAD 化)
 - ・ 映像アーカイブズの記録(民俗学博物館)

さらに二国間プロジェクトとして、8月に総研大との連携による下記のプロジェクトを計画しています。

- ・ 8月21日午後~22日午前 葉山
総研大において、オーラルヒストリー関係のセッションを開催

- ・ 8月23日午前～24日午後 つくば

KEKにおいて、アーカイブズやEADなどについてのセッションを開催

アメリカ側からは、S. Traweek, A. I. Gilliland 両氏などが参加予定、日本側からは、KEK(6名), 総研大(5名程度), NIFS(5名程度), IMS, NIJL などから参加予定です。

2. KEK アーカイブズ室について

2006年3月までは、高岩さんが室長として、立ち上げから大変な作業を担当してこられました。7月から私が引き継いでいます。非公式のミーティングとしては、国際・社会連携部3室の室長懇談会及び機構長懇談会を隔月に開催しています。事務的なマンパワーの問題がありますので、ポスドク、OB、パートタイマーなどなんらかのかたちの協力をあおぎたいと思っています。

現在のスタッフは下記のとおりです。

- ・ 室長（併任）1、事務職員1（常勤1）、OB 2
- ・ 研究協力員 2（所内1、所外1）
- ・ 史料整理作業部会(KEK Archives Working Group)

なお現在の史料整理作業部会を史料委員会(KEK Archives Committee)として、年2回程度開催できるように、現在申請中です。

また、史料整理作業部会で、明確な計画のもとに資料収集をする、より実践的なOB等のメンバーを募り、その会合を月1回程度開催したいと考えています。

〈質疑応答〉

—— KEK の資料は KEK だけにとどまらず広範な分野を含みますので、それを念頭において資料を集めていただきたいですね。

関本 今かなり資料は集まっていますが、まだ検索できる状態になっていないので、早くその体制を整える必要があります。最近、外部から資料の問い合わせも増えていますので、自分たちのためにも早く進める必要があります。高岩さんがかなり以前の資料の整理をされていますので、それを私のほうで引き継いでデジタル化していく予定です。

—— 史料整理作業部会に、史料室のメンバーに OB の方たちも入ってもらおうということですか。

関本 核融合研の史料室の活動を非常に参考にさせていただいていますので、ぜひそうしたところも見習っていきたくと思っています。

—— 史料室としてはいろいろ精力的に活動されていますが、抜けているところもいくつかあるようです。たとえば、文部省、学術会議、国会の動きなども歴史として見ておかなければならないでしょう。特に、共同利用機関設立のために、法律改正までしたわけですから。それについて、議事録などもいろいろあるようですが、急がなければならないのは、関係者のオーラルヒストリーです。当時のことを記憶されている方がなくなったり、またはオーラルヒストリーを受けられる状態ではなくなりつつありますから。

関本 まさにそのとおりです。早急にリストを作成して実施していきたくと思います。

—— 草創期の先生方とわれわれの間ではギャップがありますから、その間の伝承がとても大事だと思いますね。

—— 当時の“生臭い話”などは、いまだにまだしゃべれないということもたくさんあるでしょうから、「50 年間は封印する」という約束のもとにインタビューするのも一つの方法でしょう。

—— そのためにも、アーカイブズを整備する必要がありますね。